

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 6年 3月 1日

事業所名 スカイ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		机、椅子を移動して活動スペースを確保するなど工夫をしている。	利用定員に対して十分な広さである。このスペースの中で活動をより有意義なものにできるよう、活動内容、活動方法など工夫していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		保育士、児童指導員、心理担当職員、十分な職員を配置している。	職員の数は十分であるので、一人ひとりの役割分担を明確にして、毎日の療育活動や日々の業務に向かいたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	各フロアはバリアフリーとなっている。トイレも十分な広さがある。	建物2階にある事業所なので手すりの設置を検討したい。歩行に配慮を要する子には、必ず職員が付いて見守り援助をする。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		PDCAには全職員が参画し、日々の活動を行っている。	個別支援計画の立案、評価は児発管が中心となり、毎月の療育活動計画は主務が中心となり、毎日の活動はその日のリーダーが中心となり、全職員が参画して活動を進めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年実施している保護者アンケートの結果を活動に生かしていくよう心がけている。	保護者アンケート以外に、送迎時の保護者との会話で、子どもの状態や気になること、心配なことなどいろいろ話を聞いている。保護者の要望等に素早く適切に対応していけるよう心がけていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価結果、保護者評価結果をHP上に公開している。	毎年自己評価、保護者評価を実施し、確実に公表していく。評価結果を施設運営や日々の療育活動に生かしていけるよう全職員で検討を重ねる。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価について現在会社として検討中である。	第三者による外部からの評価は大変重要であると考えている。今年度、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を立ち上げ、第一回の会議を行った。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		ラディアント全職員研修を年2回、施設研修を毎月実施している。	社内研修はもちろん、県や市が主催する研修、その他の研修にも積極的に参加していきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントとともに、日々の送迎時の会話から思いを聞き、計画立案に生かしている。	計画立案にあたって、日ごろの保護者との会話から全職員が感じているニーズや課題をもとに目標設定、支援の方法を考えている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		ラディアント独自のアセスメントシートを現在使用している。	中学部や高等部への進級の際に再アセスメントを実施している。子どもたちの姿は日々変わっていくので、これからも再アセスメントを行ってきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		リーダーを中心にみんなで考え立案している。	リーダーからの提案をみんなで検討し、アドバイスし合って活動を行っている。この形を大切にしたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		同じ療育活動でもやり方を工夫しながら進めている。	作業的な活動が多いが、毎回同じ活動では意欲が下がっていく。やり方を工夫し、新しい方法も取り入れながら、楽しく活動できるよう工夫していきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日にできること、休日にしかできないことを考え計画を立てている。	休日、長期休暇に食育、戸外学習などを積極的に取り入れている。平日、休日にかかわらず、花・野菜の世話をスカイの特色として取り組んでいる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動と集団活動を意図的に仕組み実践している。	個別活動と集団活動はこれまでと同様に意識して実践していく。その中で、集団活動の中での個別の支援の在り方なども常に考えていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝職員のミーティングを必ず行っている。	その日の利用者の確認、送迎の確認、療育活動の内容、注意事項、職員の役割分担の確認などを確実にし、万全の態勢で子どもたちを迎えられるよう確認していく。

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		帰りの送迎後、または次の日の朝振り返りを行っている。	その日の療育活動の中での子供たちの姿、頑張ったこと、課題点、支援の仕方についての振り返りを行っている。同時に、送迎時の保護者からの情報なども共有していく。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		保護者との連絡帳、療育活動日誌にきちんと記録している。	その日の子供たちの様子を詳しく伝えられるよう、連絡帳への記載内容を充実させていく。活動日誌にもその日の出来事をできる限り詳しく記載し残していく。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		一人ひとりの姿を全職員で交流し、計画の見直しに生かしている。	利用期間の長い利用者さんについては、中学部、高等部への進学時などに再アセスメントを行い、現在の姿を正しく把握できるように心がけていく。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		活動内容が偏らないよう意識している。	作業的な活動、園芸などの体験活動を中心に、ガイドラインに沿ってバランスよく活動内容を考えていきたい。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		サービス担当者会議には主に児発管が参加している。	昨年度オープンした施設であり、利用者さんのことを十分に理解できていないところもあるので、その子をよく知る職員が会議に積極的に参加できるようにしたい。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		毎月の利用計画や実績を確実に学校に提供している。	スカイでの様子を、担任の先生や保護者にも実際に見ていただくことができるよう、常に開かれた施設運営をしたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現在は医療的ケアが必要な子はいない。	医療的ケアが必要な子はいないが、歩行が不安定で個別の介助が必要な子はいない。保護者との連携を密にし、介助の仕方、対応の仕方についてアドバイスを求めていきたい。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		支援学校や弊社スケッチブックとの連携、情報交流に力を入れている。	利用者の全員が特別支援学校の中学部、高等部の生徒であり、その多くが弊社スケッチブックを利用しているので、支援学校とスケッチブックとの連携を今後も大切にしていきたい。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		高等部卒業後、障害者福祉サービスを利用するときには確実に情報を提供していく。	高等部卒業後、弊社生活介護事業所ステージ・スケッチを引き続き利用される子がいる。他社の生活介護事業所や就労支援事業所に向かう子もいる。いずれの場合も、当事業所での情報を確実に提供していきたい。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		社内研修に専門機関の方を講師として招いて研修を行っている。	弊社で児発管の資格を持つもの全員で毎月児発管会議(研修)を行っている。その研修にも専門の方を招き、助言やアドバイスを求める機会を作っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		そういう機会を作れないか考えているが、なかなか良い案が浮かばない。	毎年のように考えてはいるがこれまでのところ実現できていない。他の事業所での取り組みがあればぜひ参考にさせていただきたい。保護者の中には必要ないという意見もある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		市主催の協議会等へはできる限り出席しようと思う。	今年度は、障害者の暮らしを支える協議会が2回開催されたが、いずれも数名参加することができた。これからもいろいろな職員が参加できるよう考えたい。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎の際の保護者との会話を大切に、共通理解を図っている。	連絡帳でその日の利用者さんの様子を丁寧に伝え、同時に送迎時、その日の姿を言葉で伝えることで子どもの姿や療育について共通理解を図っていききたい。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		いろいろな機会をとらえ保護者にアドバイスできるよう心がけていく。	研修等でペアレント・トレーニングについて学んでいきたい。その上で保護者に的確なアドバイスができるよう、まずは保護者との信頼関係を深めることに力を入れていく。	
	保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		新規契約時に保護者に対して丁寧に説明を行っている。	今後も運営規定、療育活動内容、利用者負担等について個々に丁寧に説明していきたい。
		31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎の際の会話や担念などで保護者の思いを十分聞くように心がけている。	いろいろな相談に対し、我々が持つ専門的な知識・経験や、職員自身の子育ての経験をもとに、保護者に寄り添い助言やアドバイスを続けていきたい。
		32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		数年ぶりに、療育参観の機会を持つことができた。	ここ3年間保護者会が開催できていなかったが今年度療育参観を開くことができた。今後も会の持ち方について検討しより良い形で保護者会を開催したい。
		33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情等があった時には、その情報を全職員に伝え対応について考えている。	どんな苦情もすぐに全職員にオープンにすること、そして全職員で対応について検討し、迅速に動くこと、謝罪等が必要な場合、少しでも早く謝罪に向き誠意をもって謝罪すること、これらを今後も徹底していきたい。

明責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		活動の様子をHP上で素早くお伝えできるよう努力している。	毎月の新聞やHP上のブログを楽しみにしている利用者さんもある。子どもたちが頑張っている様子、情報を少しでも早く発信、提供できるよう心がけていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取り扱いには十分注意している。	今後も個人情報の管理に細心の注意を払っていきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		毎日の連絡帳ではわかりやすい表現で伝えるよう意識している。	日本語の理解が十分ではない利用者に対して、かな文字だけのメール、かな文字だけの個別支援計画などの工夫をしてきた。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		農家で収穫体験をさせてもらった。	弊社の他の放課後デイ事業所と連携し、一緒に地域との交流を図るなど考えていきたい。農業体験などを通して地域との交流の機会を作っていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		全ての対応マニュアルを整えている。	全ての対応マニュアルを整えているが、保護者に対して周知という点ではまだ徹底できていない。新聞・HPを利用し利用者、保護者への周知に力を入れていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回地震火災避難訓練と水難避難訓練を計画している。	今年度も2回訓練を実施したが、訓練が形だけに終わらないよう、子どもたちにも意味を理解させ真剣な態度で行わせたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		社内研修に全職員対象の虐待防止研修を位置づけている。	今後も社員研修の一環として社内の虐待防止研修会を実施していきたい。現在、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を立ち上げ動き出している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	○		現在その対象となるような利用者はいない。	今後やむを得ず身体拘束が必要になる場合には、きちんと手順を踏み、その記録をきちんと残し、さらに日々の様子をきちんと保護者に伝えることを確実に進めていきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメントで食物アレルギーについて確認している。	昨年度、食物アレルギーとてんかん発作についてラディアント全利用者を対象に再調査を行った。このデータを日々の療育活動に確実に生かせるよう努力していきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット、事故報告書を作成し共有している。	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し事業所内で常に話題にし共有している。同時に管理職に報告している。今後もこの形を継続していく。